



著作権法上の

ダウンロード違法化

に関する諸問題

マンガ作品の海賊版が問題化した中で、刑事罰を含む、ダウンロード規制の広範化・厳格化が政府で議論されています。こうした法改正が有する意義、日常生活への影響、技術的性質などを、法学・情報学の観点から検討します。

2019年10月13日[日] 13時-17時
東京大学 本郷キャンパス 法文1号館 1階22番教室

(〒113-8654 文京区本郷7-3-1)



キャンバスマップ

プログラム

司会 松本 恒雄氏
(国民生活センター理事長、一橋大学名誉教授、日本学術会議法学委員会委員長)

趣旨説明 佐藤 岩夫氏
(東京大学教授、日本学術会議第一部部長)

報告 田村 善之氏
(東京大学教授) 「ダウンロード違法化拡大になぜ反対しなければならないのか? ~インターネット時代の著作権法における寛容的利用の意義~」

亀井 源太郎氏
(慶應義塾大学教授) 「刑事法研究者から見た海賊版サイト対策を巡る動き」

壇 俊光氏
(弁護士・大阪弁護士会) 「海賊版サイト対策に関する実務的な問題点」

林 紘一郎氏
(情報セキュリティ大学院大学名誉教授・元学長) 「情報法の観点から: 検閲の禁止・通信の秘密・利用の公平など」

佐藤 一郎氏
(国立情報学研究所教授、日本学術会議連携会員) 「技術的視点からみた海賊版サイト対策とその課題」

討論

総括 高山 佳奈子氏
(京都大学教授、日本学術会議法学委員会幹事)